

第7章 特別支援教育

第1節 概要

県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。本答申を具体的な施策に反映させるため、第6次福島県総合教育計画（改訂版）においては、「地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」、「特別支援学校の在り方の検討（再掲）」の6項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

また、「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、高等部設置県立特別支援学校全校による特別支援学校作業技能大会を開催した。各校の進路に関する学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の自立や社会参加につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労総合支援事業）」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

「未来へつなぐ子育て・教育充実事業」では、市町村教育委員会と連携協力の下、医療、保健、福祉、労働との関係機関と連携を図りながら、県内全ての特別な支援を必要とする幼児児童生徒が地域において一貫した支援を受けることができる相談支援体制の整備を進めた。特別支援学校教員に対する研修の充実を図り専門性の向上を図るとともに、特別支援学校のセンター的機能による、幼稚園、小・中・高等学校への相談支援や研修支援を充実させ、地域における指導支援の充実を図った。さらに、教育事務所を中心として特別支援教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を果たすとともに、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じ、支援体制整備に向けた取組を行った。

「特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（13校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

第2節 学校管理

1 児童生徒数と教職員定数

(1) 児童生徒数の推移

種別	部/年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
視覚障がい 特別支援学校	小学部	10	9	7	6	6	4	3	5	5	3
	中学部	10	7	6	7	8	6	5	3	4	5
	高等部	29	32	33	35	30	25	24	22	19	17
	計	49	48	46	48	44	35	32	30	28	25
聴覚障がい 特別支援学校	幼稚部	17	17	14	16	11	17	12	10	14	17
	小学部	35	44	42	46	54	45	44	44	38	32
	中学部	24	20	21	17	18	22	25	26	28	26
	高等部	23	24	25	29	24	24	22	23	28	28
計	99	105	102	108	107	108	103	103	103	108	103
知的障がい 特別支援学校	小学部	464	493	498	504	501	517	529	543	551	600
	中学部	408	376	345	334	362	373	371	370	376	384
	高等部	670	746	763	824	757	749	751	803	819	812
	計	1,542	1,615	1,606	1,662	1,620	1,639	1,651	1,716	1,746	1,796

種別	部/年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
肢体不自由 特別支援学校	小学部	118	119	120	124	128	142	139	136	130	126
	中学部	73	71	58	71	68	69	70	66	71	70
	高等部	90	78	83	75	76	72	79	82	82	73
	計	281	268	261	270	272	283	288	284	283	269
病弱 特別支援学校	小学部	29	37	40	34	29	35	27	33	30	29
	中学部	40	36	46	46	36	25	32	23	40	35
	高等部	40	45	44	46	40	32	37	35	36	46
	計	109	118	130	126	105	92	96	91	106	110
合 計		2,080	2,154	2,145	2,214	2,148	2,157	2,170	2,224	2,271	2,303

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

(2) 平成30年度児童生徒数

(H30.5.1 学校基本調査、訪問学級を含む)

種別	性別	部・学年 幼稚園	小学部							中学部				高等部				専攻科	合計	総計
			本科																	
			1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	1	2	3	計			
視覚障がい 特別支援学校	男		0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	1	3	0	2	5	3	8	11
	女		0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	4	2	2	4	8	1	9	14
	計		0	0	1	0	0	2	3	3	1	1	5	5	2	6	13	4	17	25
聴覚障がい 特別支援学校	男	11	0	1	4	4	2	6	17	2	10	4	16	6	7	0	13			57
	女	6	0	4	3	2	1	5	15	5	3	2	10	4	6	5	15			46
	計	17	0	5	7	6	3	11	32	7	13	6	26	10	13	5	28			103
知的障がい 特別支援学校	男		89	70	74	70	66	56	425	81	92	91	264	165	175	193	533			1,222
	女		32	26	29	23	32	33	175	39	46	35	120	110	101	68	279			574
	計		121	96	103	93	98	89	600	120	138	126	384	275	276	261	812			1,796
肢体不自由 特別支援学校	男		9	9	13	15	14	9	69	13	14	14	41	15	12	16	43			153
	女		6	8	8	8	11	16	57	11	10	8	29	7	12	11	30			116
	計		15	17	21	23	25	25	126	24	24	22	70	22	24	27	73			269
病弱 特別支援学校	男		1	2	5	2	5	3	18	6	10	1	17	13	6	8	27			62
	女		4	0	1	0	3	3	11	4	8	6	18	12	5	2	19			48
	計		5	2	6	2	8	6	29	10	18	7	35	25	11	10	46			110

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

種別	年度	視覚支援学校・聴覚支援学校										特別支援学校									
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
教員	校長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	11	12	12	12	12	12	12	12	13	13	
	教頭・教諭	122	123	121	117	119	115	131	129	133	887	948	994	965	963	967	1,145	1,157	1,209	1,242	
	養護教諭	4	4	4	4	4	4	4	4	4	23	24	25	24	24	23	24	24	26	26	
	兼任主事																				
	補充教員	7	10	5	10	11	16	14	8	13	148	147	132	162	159	160	160	150	170	189	

種別 年度	視覚支援学校・聴覚支援学校										特別支援学校									
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
教員	講師																			
	寄宿舎指導員	24	24	24	26	25	25	25	27	28	30	31	34	33	33	32	34	32	31	30
	実習助手	8	8	8	8	8	8	8	8	8	22	24	24	24	24	24	24	25	27	27
	計	167	171	164	167	169	170	184	178	188	185	1,121	1,186	1,221	1,220	1,215	1,218	1,399	1,400	1,476
事務職員	11	10	11	11	12	11	11	11	11	11	44	48	48	49	53	51	50	51	53	53
その他の職員	技能労務員																			
	学校司書																			
	用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	8	6	6	6	6	6	6	7	6	6
	ボイラー技師	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1
	栄養職員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	7	7	9	8	9	9	9	10	10
	調理給食員																			
	技能訓練士																			
	マッサージ師																			
	運転手										1	1	1							
	計	6	6	6	6	6	6	6	5	5	16	16	16	17	15	16	16	17	17	17
合計	184	187	181	184	187	187	201	194	204	201	1,181	1,250	1,285	1,286	1,283	1,285	1,465	1,468	1,546	1,597

種別 年度	計										
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
教員	校長	13	14	14	14	14	14	14	15	15	
	教頭・教諭	1,009	1,071	1,115	1,082	1,082	1,082	1,276	1,286	1,342	1,373
	養護教諭	27	28	29	28	28	27	28	28	30	30
	兼任主事										
	補充教員	155	157	137	172	170	176	174	158	183	201
	講師										
	寄宿舎指導員	54	55	58	59	58	57	59	59	59	58
	実習助手	30	32	32	32	32	32	32	33	35	35
計	1,288	1,357	1,385	1,387	1,384	1,388	1,583	1,578	1,664	1,712	
事務職員	55	58	59	60	65	62	61	62	64	64	
その他の職員	技能労務員										
	学校司書										
	用務員	10	8	8	8	8	8	8	9	8	8
	ボイラー技師	3	4	4	4	3	3	3	2	2	2
	栄養職員	8	9	9	11	10	11	11	11	12	12
	調理給食員										
	技能訓練士										
	マッサージ師										
	運転手	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
計	22	22	22	23	21	22	22	22	22	22	
合計	1,365	1,437	1,466	1,470	1,470	1,472	1,666	1,662	1,750	1,798	

2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

(1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

障がい種別	種別 校名	幼稚部		小学部		中学部		高等部				計	
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	本科		専攻科		学級数	児童生徒数
								学級数	生徒数	学級数	生徒数		
視覚	県立視覚支援学校			2	3	3	5	7	13	3	4	15	25
	小計			2	3	3	5	7	13	3	4	15	25
聴覚	県立聴覚支援学校	3	6	6	14	7	26	9	28			25	74
	県立聴覚支援学校福島校	3	7	4	8							7	15
	県立聴覚支援学校会津校	1	2	2	2							3	4
	県立聴覚支援学校平校	1	2	4	8							5	10
	小計	8	17	16	32	7	26	9	28			40	103
知的障がい	県立大笹生支援学校			31	97	15	53	20	115			66	265
	県立あぶくま支援学校			29	95	21	68	35	192			85	355
	県立西郷支援学校			14	37	10	32	11	58			35	127
	県立石川支援学校			13	36	8	24	14	64			35	124
	県立石川支援学校たまかわ校			13	37	4	11					17	48
	県立たむら支援学校			11	28	3	9	4	16			18	53
	県立会津支援学校			26	77	18	57	16	81			60	215
	県立猪苗代支援学校			5	13	3	10	6	20			14	43
	県立いわき支援学校			25	81	13	47	20	91			58	219
	県立いわき支援学校くばた校							7	30			7	30
	県立富岡支援学校			11	26	3	8	6	21			20	55
	県立相馬支援学校			8	26	6	26	8	39			22	91
	福島市立福島養護学校			9	32	6	25	10	62			25	119
	小計			195	585	110	370	157	789			462	1,744
肢体不自由	県立郡山支援学校			28	72	18	44	19	48			65	164
	県立平支援学校			22	54	13	26	9	25			44	105
	小計			50	126	31	70	28	73			109	269
病弱	県立須賀川支援学校			6	12	8	18	14	46			28	76
	県立須賀川支援学校医大校			4	11	3	4					7	15
	県立須賀川支援学校郡山校			3	3	4	7					7	10
	県立会津支援学校竹田校			2	3	2	6					4	9
	小計			15	29	17	35	14	46			46	110
合計		8	17	278	775	168	506	215	949	3	4	672	2,251

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別		小学校							中学校							計	
	種別	内容	弱視	難聴	知的	病弱・ 身体虚弱	肢体 不自由	言語	自閉症 ・ 情緒	小計	弱視	難聴	知的	病弱・ 身体虚弱	肢体 不自由	言語		自閉症 ・ 情緒
県北	学校数	0	1	64	1	1	0	51	118	0	3	35	1	0	0	31	70	188
	学級数	0	1	79	1	1	0	62	144	0	3	41	1	0	0	34	79	223
	児童生徒数	0	1	359	2	5	0	301	668	0	5	168	1	0	0	120	294	962
県中	学校数	0	2	75	0	0	0	61	138	0	2	140	0	0	0	33	75	213
	学級数	0	2	91	0	0	0	80	173	0	2	44	0	0	0	36	82	255
	児童生徒数	0	2	396	0	0	0	400	798	0	2	182	0	0	0	122	306	1104
県南	学校数	1	4	29	0	2	0	20	56	0	0	13	0	0	0	10	23	79
	学級数	1	4	34	0	2	0	22	63	0	0	13	0	0	0	10	23	86
	児童生徒数	1	4	124	0	2	0	82	213	0	0	39	0	0	0	34	73	286
会津	学校数	0	0	36	2	2	0	32	72	0	0	23	0	0	0	15	38	110
	学級数	0	0	38	2	2	0	33	75	0	0	24	0	0	0	15	39	114
	児童生徒数	0	0	147	2	4	0	106	259	0	0	70	0	0	0	29	99	358
南会津	学校数	0	0	9	1	0	0	6	16	0	0	4	0	0	0	3	7	23
	学級数	0	0	9	1	0	0	6	16	0	0	4	0	0	0	3	7	23
	児童生徒数	0	0	16	1	0	0	16	33	0	0	9	0	0	0	6	15	48
相双	学校数	0	1	24	0	1	0	18	44	0	1	14	1	0	0	7	23	67
	学級数	0	1	27	0	1	0	18	47	0	1	14	1	0	0	8	25	72
	児童生徒数	0	1	101	0	1	0	59	162	0	1	40	1	0	0	29	71	233
いわき	学校数	1	1	42	0	0	0	28	72	0	0	23	0	0	0	13	36	108
	学級数	1	1	47	0	0	0	30	79	0	0	28	0	0	0	14	42	121
	児童生徒数	2	1	220	0	0	0	132	355	0	0	120	0	0	0	48	168	523
計	学校数	2	9	279	4	6	0	216	516	0	6	152	2	0	0	112	272	788
	学級数	2	9	325	4	6	0	251	597	0	6	169	2	0	0	120	297	894
	児童生徒数	3	9	1363	5	12	0	1096	2488	0	8	628	2	0	0	388	1026	3514

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別		小学校							中学校							計	
	種別	内容	弱視	難聴	言語 障がい	自閉症	情緒 障がい	LD	ADHD	小計	弱視	難聴	言語 障がい	自閉症	情緒 障がい	LD		ADHD
県北	学校数	0	0	4	3	0	3	4	14	0	0	0	1	0	2	1	4	18
	学級数	0	0	12	6	0	5	4	27	0	0	0	1	0	2	1	4	31
	児童生徒数	0	0	169	126	0	135	102	532	0	0	0	19	0	27	22	68	600
県中	学校数	0	1	2	8	0	0	7	18	0	0	1	0	0	0	1	2	20
	学級数	0	1	3	8	0	0	7	19	0	0	1	0	0	0	1	2	21
	児童生徒数	0	7	53	107	0	0	68	235	0	0	10	0	0	0	17	27	262
県南	学校数	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	学級数	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	児童生徒数	0	0	0	0	0	0	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	20
会津	学校数	0	0	1	1	0	3	2	7	0	0	0	0	0	1	2	3	10
	学級数	0	0	1	1	0	4	3	9	0	0	0	0	0	1	2	3	12
	児童生徒数	0	0	15	5	0	50	32	102	0	0	0	0	0	18	7	25	127
南会津	学校数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	学級数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	児童生徒数	0	0	0	0	0	0	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	15
相双	学校数	0	0	2	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	1	1	5
	学級数	0	0	6	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	1	1	9
	児童生徒数	0	0	111	0	0	0	32	143	0	0	0	0	0	0	7	7	150
いわき	学校数	0	0	2	1	1	0	2	6	0	0	0	1	0	0	0	1	7
	学級数	0	0	5	1	1	0	2	9	0	0	0	1	0	0	0	1	10
	児童生徒数	0	0	62	15	12	0	21	110	0	0	0	4	0	0	0	4	114
計	学校数	0	1	11	13	1	6	21	53	0	0	1	2	0	3	5	11	64
	学級数	0	1	27	16	1	9	22	76	0	0	1	2	0	3	5	11	87
	児童生徒数	0	7	410	253	12	185	290	1157	0	0	10	23	0	35	53	131	1288

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

年 度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
対象児童生徒数	80	77	75	89	69	90	80	69	58	55	54	49	50	43	42	39	43	38	33	34	36	36	32	30
担 当 教 員 数	35	33	36	41	36	45	36	41	33	33	35	27	27	27	27	30	29	24	19	27	32	18	18	18

(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移

年 度	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
猶 予 者 数	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
免 除 者 数	5	7	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成 30 年度の県立特別支援学校教職員の定数(補充教員は含まない)は、前年比 30 人増の 1,597 人となった。このうち、教諭等は、前年比 31 人増の 1,373 人である。

ア 新採用について

平成 31 年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、平成 30 年度に比べ、前年比 6 人増の 263 人(小中学校教員採用試験との併願者を含む)であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は 70 人であり、62 人が教諭として採用された。

イ 交流について

平成 30 年度人事異動は、例年通り 4 月 1 日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に 3 年以上勤務する者等を含め 145 人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流(転入)は 19 人で、高等学校との交流(転入)は 7 人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

(2) 平成 30 年度県立特別支援学校教員異動・交流基準

ア 一般基準

(ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡をはかるように努める。

(イ) 同一校には原則として最低 3 年は勤務するものとする。

(ウ) 2 親等以内の者(姻族を含む)は原則として同一校勤務をさける。

イ 平成 20 年度以前の採用者についての基準(以下「旧基準」)という。

(ア) 勤続年数による基準

次の基準に該当する者は、原則として異動の対象とする。

○ 採用後引き続き同一校に 3 年以上勤務した者(以下「初任者」という。)

○ 同一校に 8 年以上勤務した者(以下「永年者」という。)

(イ) 地区、障がいによる基準

教員の均衡化を図るため、県内を県北、県南、会津、いわき、相双の 5 地区に分け、地区及び障がいに、所在する学校を別表 1 に定める I・II 群に分類し、以下により異動を促進する。

○ 昭和 52 年度以降、特別支援学校教員採用者は、原則として、15 年以内に 2 地区および 2 障がい以上の学校に勤務するものとする。

○ 上記の 2 障がいの経験については、原則として、別表 1 注によるものとする。

ウ 平成 21 年度以降の採用者についての基準(以下「新基準」という。)

(ア) 勤続年数により基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

○ 初任者

○ 異動 2 校目において 3 年以上勤務したもの(以下「若年者」という。)

○ 永年者

(イ) 地域による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表 2 のとおり中通り、会津、浜通りの 3 地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後 20 年以内に 3 地域の学校に勤務するものとする。

エ 平成 24 年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。

ただし、平成 20 年度以前の旧基準採用者については、平成 30 年度まではイ(イ)別表 1 を準用し、(イ)○印を満たす者は、ウ(イ)の規定を満たす者とみなす。

オ 交流

特別支援学校及び小学校、中学校、高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校及び市町村公立小・中学校、県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については原則として 3 年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として 3 年から 8 年とする。

別表1 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校

群分類	I 群	II 群			
障がい 地区	知的障がい 教育を主と する学校	視覚障がい 教育を主と する学校	聴覚障がい 教育を主と する学校	肢体不自 由教育を主と する学校	病弱教育 を主とする 学校
県北	大笹生支援	視覚支援	聴覚支援 (福島)		須賀川 支援 (医大)
県南	あぶくま 支援 石川支援 石川支援 (たまかわ校) たむら支援 西郷支援		聴覚支援	郡山支援	須賀川 支援 須賀川 支援 (郡山)
会津	会津支援 猪苗代支援		聴覚支援 (会津)		会津支援 (竹田)
いわき	いわき支援 いわき支援 (くぼた)		聴覚支援 (平)	平支援	
相双	富岡支援 相馬支援				

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみ経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者、又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではなく、これまで2地区及び2障がいの勤務経験を有していない者、及び平成8年度以降平成20年度までの採用教員については、(1)、(2)の勤務経験を必要とする。

別表2 県立特別支援学校地域別学校

地域	地区	学校	
中通り	県北	視覚支援 聴覚支援(福島)	大笹生支援 須賀川支援(医大)
	県中	聴覚支援 あぶくま支援 須賀川支援(郡山)	郡山支援 須賀川支援 たむら支援
	県南	西郷支援 石川支援(たまかわ校)	石川支援
会津	会津	会津支援 聴覚支援(会津)	会津支援(竹田) 猪苗代支援
浜通り	いわき	平支援 聴覚支援(平)	いわき支援 いわき支援(くぼた)
	相双	富岡支援	相馬支援

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

学校教育審議会答申(平成21年9月)の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第6次総合教育計画(改訂版)で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもが障がいのない子どもと共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第6次総合教育計画(改訂版)では、次の基本的な方針のもとに、大きく6つの具体的な取組を示し、その充実に努めた。

○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。

- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

○ 具体的な取組

- ・ 地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進、小・中学校における特別支援教育の充実
- ・ 高等学校における特別支援教育の充実
- ・ 特別支援学校におけるセンター的機能の充実
- ・ 教員の特別支援教育に関する指導力の向上
- ・ 特別支援学校の在り方の検討(再掲)

(2) 指導組織

課長、主幹兼副課長1名、主幹1名、主任管理主事1名、管理主事3名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育内容・方法の改善充実

- (7) 児童生徒一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じた適切な教育を行うために特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等の教員に対し、教育課程実施に伴う指導上の問題点、個に応じた指導の工夫改善、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成等について研修を行い、指導担当者の指導力の向上に努めた。

(イ) 各種研修会、要請訪問等を通して、幼児児童生徒の実態に応じた学習指導、生徒指導等の諸問題について協議を深め、学校運営の質的向上に努めた。

イ 生徒指導の充実

幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、生徒指導の機能を生かした授業や家庭及び関係機関との連携に努めた。

また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を5月と11月の2回開催し、本県の生徒事故の現状や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努めた。

ウ 進路指導の充実

「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、生徒の自立と社会参加を図るため、全ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。作業技能検定や作業製品品評等で得られた外部専門家からの評価を生かし、各校の進路に関する取組のさらなる充実を図ると共に、生徒の就労に向けた企業等への理解啓発を行った。また、「次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労推進事業）」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者による進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携した早期からの支援体制の構築を図った。

エ 発達障がいのある児童生徒への指導の充実

障がいの多様化に対応した教育課程の編成に努め、個に応じた指導計画の作成及び指導の充実に努めるなど、学習指導要領の趣旨を生かした特別支援学級経営の充実に努めた。また、「発達障がいの可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」を実施するとともに、通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の理解や指導の在り方について、各地域において特別支援教育コーディネーターや教員を対象とした研修を開催し、指導力や専門性の向上に努めた。

オ 交流及び共同学習の推進

近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流を通し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重する心を育むことに努めた。

カ 情報教育の充実

幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服し、学習を支援するために情報機器や情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用するとともに児童生徒の情報活用能力の育成に努めた。

(4) 教員の資質と指導力の向上

ア 「切れ目のない支援体制整備事業」事業担当者会議の開催

事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等の報告及び課題についての協議を行い、各教育事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指導の重点や事業概要等について研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実にに向けた指導業務の円滑な推進を図った。

イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ 特別支援学校初任者研修、二年次教員フォローアップ研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、教科（領域）指導研修や社会体験研修等を行った。

エ 特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員6名を国立特別支援教育総合研究所の専門研修へ派遣した。

(5) 就学相談の推進

学校教育法施行令の一部改正による就学先決定の仕組み等の周知を図るため、市町村教育委員会就学事務担当者と公立中学校管理職を対象に教育支援協議会を県内7か所で開催した。また、市町村の就学先決定における相談の充実については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期からの一貫した支援の充実に努めた。

(6) 特別支援教育の推進

ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業

「平成30年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が、在籍している学校（13校）に看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

聴覚支援学校、聴覚支援学校福島校、大笹生支援学校、郡山支援学校、あぶくま支援学校、須賀川支援学校、西郷支援学校、石川支援学校、会津支援学校、会津支援学校竹田校、平支援学校、いわき支援学校、相馬支援学校

【平成 30 年度医療的ケア実施運営協議会委員】

氏名	委嘱時の職名
◎森田 浩之	県総合療育センター・副所長
○生江 良幸	太田西ノ内病院・小児科部長
古橋 知子	福島医科大学看護学部・准教授
斎藤 昭弘	保健福祉部障がい福祉課・専門員
門脇 俊平	子ども未来局児童家庭課・技師
鈴木 基之	県特別支援教育センター・所長
鈴木 仁	白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー
大橋 隆史	聴覚支援学校・教頭
小川 令子	聴覚支援学校福島校・教頭
大竹奈保子	大笹生支援学校・教頭
加藤 賢一	郡山支援学校・教頭
佐藤 登	あぶくま支援学校・教頭
喜多見久美	須賀川支援学校・教頭
田中 紀彦	西郷支援学校・教頭
菅野かおり	石川支援学校・教頭
阿部 和行	会津支援学校・教頭
梅津 幸男	会津養護学校竹田分校・分校長
齋藤 顕	平支援学校・教頭
香取 重治	いわき支援学校・教頭
持舘 康生	相馬支援学校・教頭
平澤美智子	平支援学校・看護師
鍋木いづみ	郡山支援学校・看護師

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

○ 平成 30 年 6 月 15 日

【会議における検討事項】

- 医療的ケア児が就学するときの関係機関や保護者との連携について
- 医療的ケア児が安心安全にケアを受けるためのマニュアルの作成について

【看護師研修会の開催】

- 年 1 回の医療的ケア実施校看護師研修会を郡山支援学校において実施した。

イ 「切れ目のない支援体制整備事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内 7 地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年 2 回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や、地域自立支援協議会子ども部会等の充実のための具体的方策について協議するとともに、相談体制の整備や相談支援ファイルの活用への促進に取り組んだ。

ウ 地域支援体制の充実

県立特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を發揮し、小・中学校等や市町村教育委員会のニーズに応じた相談や研修等の支援を実施した。

相談・研修件数は 3,440 件であった。

また、県内の各教育事務所が地域支援のコーディネーターとなり、相談支援チームを編制し、市町村や小・中学校等への支援の在り方や具体的な方策について協議するとともに、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に向けた支援を実施した。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい等のある生徒の支援の充実

平成 17 年度から平成 23 年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD 等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、平成 30 年度は県立高等学校 18 校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立中学校管理職を対象に学校教育法施行令の一部改正に伴い、「教育支援協議会」において、就学先決定の流れや特別な支援を必要とする生徒の支援等について説明をし、障がい児の一貫した支援に努めた。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

2 現職教育

(1) 教員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教員の資質向上に努めた。

名称	期日	期間	会場	人数	対象
特別支援学校教育課程運営改善講座	8月21日	1日	県特別支援教育センター	42	特別支援学校教員
特別支援学級等新任担当教員研修会	4月18日 11月各地区 2日間	3日	県特別支援教育センター	139	特別支援学級担当教員
通級指導教室担当教員研修会	7月18日	1日	県特別支援教育センター	57	通級指導教室担当教員
特別支援学校経験者研修Ⅰ	6月20日～ 6月22日	3日	県特別支援教育センター	42	特別支援学校教員
特別支援学校経験者研修Ⅱ	6月27日～ 6月29日	3日	県特別支援教育センター	30	特別支援学校教員

特別支援学校初任者研修

名称	期日	期間	会場
宿泊研修	一次研修	8月8日～10日	磐梯青少年交流の家
	二次研修	2月7日～9日	いわき海浜自然の家
一般研修	4月11日～12日	2日	県特別支援教育センター
カウンセリング研修	6月13日～14日	2日	県特別支援教育センター
地区別研修	講習会研修会等参加研修	各校で実施	各地区内の該当学校等
	他校参観研修	各校で実施	各地区内の該当学校等
	企業等体験研修	各校で実施	各地区内の該当学校等
教育課程別研修	9月12日	1日	初任者配置校
学部別研修	11月14日	1日	初任者配置校
	年間150時間以上		各所属校

(2) 特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修 2か月）

氏名	職名	学校名	コース等	期間
小原 巧也	教諭	聴覚支援学校	聴覚障害教育専修	31年1月9日～ 3月14日
佐藤 絢香	教諭	須賀川支援学校	病弱教育専修	31年1月9日～ 3月14日
八巻 裕	教諭	郡山支援学校	肢体不自由教育専修	31年1月9日～ 3月14日
高橋 理恵	教諭	石川支援学校	知的障害教育専修	9月5日～ 11月9日
大竹 舞香	教諭	あぶくま支援学校	知的障害教育専修	9月5日～ 11月9日
泉 翔子	教諭	いわき市立磐崎小学校	発達障害・情緒障害教育専修	5月14日～ 7月13日

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校の特別支援教育コーディネーターに対し、インクルーシブ教育システムの理解を深め、校内支援体制や児童生徒への配慮や支援等についての役割を研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、インクルーシブ教育システムの理解を深め、校内支援体制や生徒への配慮や支援等についての役割を研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターに対し、センター的機能の在り方、国や県の教育施策、コンサルテーションの進め方等について研修し、特別支援教育コーディネーターの専門性の向上及び実践力の向上を図った。

地区	会場	期日	受講者数
県内	県特別支援教育センター	5月29日	25

3 教育課程

(特別支援学校教育課程運営改善講座)

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

地区	期日	会場	人数	参加対象
県内	8月21日	県特別支援教育センター	42	特別支援学校の教務主任等

4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング(登校学習)を実施した。

さらに、大笹生支援学校と郡山支援学校では高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

校名	学級数								児童生徒数								スクーリング児童生徒数			
	小学部	病院訪	中学部	病院訪	高等部	病院訪	学部計	病院訪	小学部	病院訪	中学部	病院訪	高等部	病院訪	学部計	病院訪	小学部	中学部	高等部	計
大笹生支援学校	2		1		1		4	0	5		1		1		7	0	4	1		5
郡山支援学校	1		1		1		3	0	3		2		2		7	0	3			3
須賀川支援学校郡山分校		1		1			0	2		2					0	2				0
須賀川支援学校医大分校		1					0	1		1					0	1				0
石川支援学校			1				1	0			1				1	0				0
会津支援学校	1		1				2	0	2		1				3	0	2	1		3
平支援学校	1	1	1	1			2	2	3	3	1	1			4	4	3	1		4
相馬支援学校	1						1	0	1						1	0	1			1
合計	6	3	5	2	2	0	13	5	14	6	6	1	3	0	23	7	13	3	0	16

5 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達の段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導支援に努めた。

(2) 進路指導

ア 夢に向かってテクノチャレンジ事業

(ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校
 福島大学附属特別支援学校
 福島市立福島養護学校 計 18校

(ウ) 実施状況

a 特別支援学校作業技能大会の開催

- ・期日 7月31日(火)
- ・場所 ビッグパレットふくしま

b 実施部門

- ・作業技能検定部門
- ビルクレーニング、喫茶接遇サービス、パソコンデータ入力、店舗販売(品出し・パッケージ)

・作業製品品評部門

作業製品の品評と作業学習の紹介等

・デモンストレーション部門

視覚支援学校理療科のあん摩マッサージ等の技術披露

c 外部評価の活用

・各作業技能検定部門及び作業製品品評部門の評価表に関する助言

・作業技能検定部門と作業製品品評部門の審査

イ 次世代のふくしまを担う人材育成事業(特別支援学校における就労推進事業)

(ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、就職率と定着率の向上を図る。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校
 福島大学附属特別支援学校
 福島市立福島養護学校 計 18校

(ウ) 実施状況

a 進路支援チーム会議の実施

- ・特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議
- ・障がい者就業・生活支援センターとの連携強化

- b 移行支援機能の充実
 - ・関係機関と連携した、早期からの移行支援会議の実施
 - ・在学中から卒業後までの長いスパンでの支援
- c 企業の求める人材育成
 - ・作業学習の内容や手法の見直し
 - ・ジョブコーチや企業等からの指導助言
 - ・「障がい者就職面接会」への参加
 - ・「特別支援学校早期訓練コース」の活用
- d 外部評価の活用
 - ・「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用
 - ・「障がい者技能競技大会」への参加

6 特別活動

(1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

学部 障がい	学部				合 計
	幼稚部	小学部	中学部	高等部	
視覚障がい		2	1	8	11
聴覚障がい	4	11	6	5	26
知的障がい		86	120	233	439
肢体不自由		25	20	27	72
病 弱		5	6	10	21
計	4	129	153	283	569

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

学部	開催日									
	3月1日	3月4日	3月5日	3月12日	3月13日	3月15日	3月16日	3月18日	3月19日	3月20日
幼稚部						1	1			1
小学部					2	11	1	3	1	3
中学部				1	2	10	1	2	1	2
高等部	1	1	5		1	2	1	1	1	2

(2) 修学旅行

学部	行き先 日数	行き先							日 数				人 数	
		県内	東北	関東	北陸	関西	九州・沖縄	北海道	日帰り	一泊二日	二泊三日	三泊四日		四泊五日
小学部		4	5	5					13	1				105
中学部				15					4	11				143
高等部		1		6		12			1	3	9	6		286

7 学校訪問

県立特別支援学校

経験者研修Ⅰ、Ⅱの研究授業日に学校訪問を実施した。

No.	訪問日	学 校 名
1	9月18日	いわき支援学校くぼた校
2	9月20日	郡山支援学校
3	10月12日	富岡支援学校
4	10月30日	あぶくま支援学校
5	11月 6日	石川支援学校たまかわ校
6	11月19日	平支援学校

8 県立学校学校教育指導委員

氏 名	職 名	所 属 校
國分 静香	教諭	視覚支援学校
寺井 寛	教諭	聴覚支援学校
渡邊 万里	教諭	郡山支援学校
永戸 千賀	教諭	須賀川支援学校郡山校
佐藤 綾	教諭	西郷支援学校
原田 友加	教諭	石川支援学校
横山 史子	教諭	たむら支援学校
中野 正貴	教諭	会津支援学校

9 就学指導

(1) 福島県特別支援教育推進会議

福島県特別支援教育推進会議委員

委 員	職 名
学識見識者	大学教授
関係機関	NPO団体代表
関係機関	県総合療育センター所長
関係機関	県保健福祉部障がい福祉課長
関係機関	県保健福祉部こども未来局児童家庭課長
関係機関	県商工労働部雇用労政課長
教育関係	小学校長会代表
教育関係	中学校長会代表
教育関係	高等学校長会代表
教育関係	特別支援学校長会代表
教育関係	県特別支援教育センター所長
教育関係	県教育庁特別支援教育課長

(2) 教育支援協議会

ア 期日及び会場

地区	期日	会場	参加者数
県北	6月1日	パルセいいざか	49
県中	6月7日	特別支援教育センター	39
県南	5月25日	白河合同庁舎	26
会津	6月14日	湯川村公民館	49
南会津	5月31日	御蔵入交流館	12
相双	6月8日	かしま交流センター	33
いわき	5月30日	いわき合同庁舎	41

イ 参加者

- ・各市町村教育委員会指導主事等
- ・公立中学校管理職

ウ 説明及び協議

(ア) 説明

「特別な支援が必要な生徒への支援のあり方について」

(イ) 説明及び協議

「自校における特別な支援が必要な生徒への支援の取組について」

10 教科用図書

(1) 教科用図書事務説明会

ア 開催日時・場所

平成30年6月7日・自治会館

イ 参加者

各教育事務所 各市町村教育委員会
特別支援学校教科書担当者

(2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期日及び会場

6月11日～6月12日	相馬支援学校
6月14日～6月15日	福島市立福島養護学校
6月18日～6月20日	大笹生支援学校
6月22日～6月25日	会津支援学校
6月27日～6月28日	南会津町役場
7月2日～7月3日	西郷支援学校
7月5日～7月9日	あぶくま支援学校
7月11日～7月13日	平支援学校
7月17日～7月23日	県特別支援教育センター (一般公開)

11 教育研究団体

(1) 平成30年度福島県特別支援学校長会役員

役職名	氏名	所属校
会長	須田 康仁	視覚支援学校
副会長	芳賀 孝美	聴覚支援学校
副会長	佐藤 成紀	福島市立福島養護学校

(2) 平成30年度福島県特別支援学校教頭会役員

役職名	氏名	所属校
会長	香取 重治	須賀川支援学校郡山校
副会長	梅津 幸男	会津支援学校竹田校
副会長	大槻 孝昭	須賀川支援学校医大校

(3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組織

役職名	氏名	所属校
会長	佐藤 成紀	福島市立福島養護学校
副会長	須田 康仁	視覚支援学校
副会長	酒井 勝弘	郡山市立橋小学校

イ 事業の概要

事業名	期日	会場	概要
役員会	2月15日	県特別支援教育センター	H30事業報告、H31事業計画について

(4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

役職名	氏名	所属
会長	鈴木 敏夫	仁愛看護福祉専門学校長
副会長	櫻井 和朋	元県PTA連合会長
副会長	齊藤 義人	元福島商業高等学校長
理事	山崎 壽克	県北支部長
理事	道下 和幸	県中支部長
理事	圓谷美智子	県南支部長
理事	木村 秀	会津支部長
理事	只野 裕一	相双支部長
理事	大谷 明	いわき支部長
監事	鈴木 基之	県特別支援教育センター所長
監事	高屋 隆男	東北福祉大学准教授 元聾学校長
顧問	柳沼 穹壹	元あぶくま養護学校長

イ 事務局

(ア) 本部事務担当

聴覚支援学校 校長 芳賀 孝美
聴覚支援学校 教頭 岡田 進
聴覚支援学校 教頭 大橋 隆史
聴覚支援学校 事務長 田澤 好一

(イ) 支部

支部	事務局校	支部	事務局校
県北	視覚支援学校	会津	猪苗代支援学校
県中	郡山支援学校	相双	相馬支援学校
県南	西郷支援学校	いわき	平支援学校

